

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて
効果的な「主体的で対話的な学びの実現」と「タブレット活用」

	授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）
第 1 学年	<p>学習において重要な流れは、「まず個人で課題と向き合い考える」→「それを他者と交流し、より深める」→「もう一度自分の中で振り返る」という流れだ考える。そこで以下の内容に取り組む。</p> <p>①個人で思考する時間の確保 個人で課題と向き合う時間を必ず設定し、誰にでも思考を深められる時間を確保する。</p> <p>②交流し、自分の答えに関する確認やその答えに至った経緯を話す時間を設け、思考を深める時間の確保 ただ答え合わせをしてもその答えに至る経緯を、生徒一人一人に合った思考方法で解説することは厳しい。そこで周囲と話す時間を設けることで、答えに至る経緯を話せる時間を与えられるとともに、様々な思考方法と触れられる時間を与えられると考える。 なお、このときの共有のやり方としては口頭（聴覚で済ませることができるもの）がよいか、タブレット（視覚でみたほうがよいもの）がよいかを吟味し、判断する。</p> <p>③学んだことを振り返る時間の確保 なんとなく理解し、授業（単元）を終わるのではなく、理解したこと・学んだことをしっかりと言語化していくことが重要である。そうすることで抽象から具体に変化していく。授業もしくは単元が終わりごとに必ずまとめ（振り返る）時間を設ける。この際も課題によってはタブレットを活用し、必要に応じて他者と共有する。</p>
第 2 学年	<p>①自分の解法を表現するのに必要な語彙力を高める。</p> <p>②友達と交流し、自分の答えに関する確認やその答えに至った経緯を話す時間を設け、思考を深める時間を確保する。また交流機会を増やし、内容理解を深める。</p>
第 3 学年	<p>①自分の解法を表現するのに必要な語彙力を高める。</p> <p>②友達と交流し、自分の答えに関する確認やその答えに至った経緯を話す時間を設け、思考を深める時間を確保する。また交流機会を増やし、内容理解を深める。</p>

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて
[思考力・判断力・表現力等]
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、生徒自らが社会参画しようとする態度を養う。

	授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）
第 1 学年	<ul style="list-style-type: none">ICT 機器を活用して他者意見に触れる機会を増やし、異なる意見を受け入れる場面を増やす。生徒の興味関心を引き出す事例を扱い、社会的事象を自分事としてとらえられるようにする。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none">ICT 機器を活用して他者意見に触れる機会を増やし、異なる意見を受け入れる場面を増やす。生徒の興味関心を引き出す事例を扱い、社会的事象を自分事としてとらえられるようにする。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none">ICT と単元見通しシートを活用して学び方の振り返る仕組みをつくり、自己調整の力の育成を図る。GIGA 端末を活用し、他者の意見を参照しながら協動的な学びを実現する。自分で学習を進める時間を設け、個別最適な学びを実現する。

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて

【思考・判断・表現】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）
第 1 学年	①単元の学習計画をもとに、小单元ごとに小テストを実施することで復習の習慣をつくり、基礎基本の定着を図る。 ②個人解決の時間と協同的な学習の時間を充実させ、数学的な思考力、表現力を育む。 ③問題集や ICT を活用し、家庭学習を充実させる。
第 2 学年	①小テストを小单元ごとに実施することで基礎基本の定着を図る。 ②自分で解法を考えたり、友達の解法を聞いたりする機会を増やすことで、内容の理解を深めていく。 ③家庭学習の際に、繰り返し学習ができるようにキュービナ・問題集を活用している。
第 3 学年	① 小テストを繰り返すことにより、基礎基本の定着につなげる。 ② 協同的な学びを実践することにより、他者の解法にも注目させ、表現力の向上を目指し、考える力を向上させている。 ③ テストの振り返り、問題集やキュービナの活用で繰り返し学び、理解させ意欲向上につなげる。

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて

【思考・判断・表現力等】

理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する力を養う。

	授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）
第 1 学年	① 習得した知識を活用し、問題を解決していく能力を習得するために、单元ごと的小テストを定期的に行う。 ② GIGA 端末を活用して、自分の考えを伝える授業づくりを行う。
第 2 学年	① 知識・技能を活用して実験を行い、考察を、根拠をもって書く場面を増やしていく。 ② 習得した知識を活用し、問題を解決していく能力を習得するために、单元ごと的小テストを定期的に行う。 ③ GIGA 端末を活用して、自分の考えを伝え説明する授業づくりを行う。
第 3 学年	① 予想や仮説を立て、実験から規則性を見出し、表現する力を養う授業を行う。 ② 習得した知識を活用し、問題を解決していく能力を習得するために、单元ごと的小テストを定期的に行う。 ③ GIGA 端末を活用しながら、疑問に対して自分で考えわかりやすく表現する授業づくりを行う。

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて
「主体的・対話的で深い学び」の実現、1 人一台端末の効果的な活用

	授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）
第 1 学年	①単元のゴールを見据えた発表や会話活動を授業の最後で行い、授業を重ねるごとに、表現の幅が広がることを実感できる授業作りを行う。 ②単語練習、文法演習を家庭学習でも行うことに加え、GIGA 端末を活用して習得状況を把握するテストを定期的に行う。 ③カラい英会話や日々の会話活動を通して、即興のやり取りの練習を行う。
第 2 学年	①単元のゴールに向けてスモールステップを積み重ね、表現する力や、英文を読んで理解できる力を高めていく授業づくりを行っていく。 ②表現に必要な語彙力、文法力を高める。 ③GIGA 端末を活用し、発表原稿の作成やプレゼンテーション資料の作成に力を入れる。また既習の単語や表現を復習する継続した学習の機会をより多く提供していく。
第 3 学年	①単元目標を理解し、目標の活動に向けた表現力や読解力を身につけられる授業づくりを行う。 ②①の活動に必要な語彙や文法を習得できるように練習活動を継続して行う。 ③授業の振り返りや学習内容の確認や、表現活動時の原稿や資料作成などに、端末を活用する。 ④オンライン英会話を既習学習内容のアウトプット練習として活用できるように、スケジュールリングする。

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて
音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊にし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

	授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）
第 1 学年	・知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、それらについて他者と共有、共感したりする際には、体を動かす活動を取り入れるようにする。
第 2 学年	・知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、それらについて他者と共有、共感したりする際には、体を動かす活動を取り入れるようにする。
第 3 学年	・知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、それらについて他者と共有、共感したりする際には、体を動かす活動を取り入れるようにする。

保健体育科

令和 7 年度 東大和市立第五中学校 授業改善推進プラン 教科名

保健体育科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて

[学びに向かう力、人間性等]

主体的に授業に取り組み、友人と認め合いながら、課題に挑戦する力

授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）

第 1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人と協力して取り組む活動を設定する。話し合い活動等を生かしながら、課題達成を目指していく。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人と協力して取り組む活動を設定する。話し合い活動等を生かしながら、課題達成を目指していく。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共修であること生かした授業展開の中で、単元設定、計画の工夫で、ゴール型でも男女一緒に取り組ませる。その中で主体的に運動に取り組みながら、皆で協力し、主体的に運動に親しむ力を高めたい。

技術・家庭科

令和 7 年度 東大和市立第五中学校 授業改善推進プラン 教科名

技術・家庭科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領・学校経営方針と教育課程の指導の重点に照らし合わせて

[思考力・判断力・表現力等]

問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けさせる。
また、より良い地域境の構築を目指して生物育成の技術を評価し、適切に選択・管理・運用する力を身に付けさせる。

授業改善の目標と手立て（具体的な手立て）

第 1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定を行うにあたって、材料加工の技術の見方・考え方を生かして、身の回りから設定できるようにする。 ・ 身の回りから問題を発見できるように、視覚教材を増やし、直感的に取り組めるようにする。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定を行うにあたって、エネルギー変換、生物育成の技術の見方・考え方を生かして、身の回りから設定できるようにする。 ・ 身の回りから問題を発見できるように、視覚教材を増やし、直感的に取り組めるようにする。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定を行うにあたって、情報の技術の見方・考え方を生かして、身の回りから設定できるようにする。 ・ 身の回りから問題を発見できるように、視覚教材を増やし、直感的に取り組めるようにする。